

introduction

最近の10年間でインプラント周囲骨折という言葉をよく耳にするようになりました。この骨折は、これまでも当然のように起こっていたわけで、担当医は個々の症例に対して最良と思われる治療方針を検討し実施してきました。近年、インプラント周囲骨折は多様化し、治療が複雑化してきており、人工関節医、外傷医ともに治療方針についての標準的な知識を整理する必要があると思います。

人工関節手術は関節疾患や外傷によって生じた関節の問題に苦しむ多くの患者にとって、痛みを軽減し生活の質を向上させる大変すぐれた治療法です。膝や股関節などを中心に10年前と比べて明らかに手術件数は増加しており、これからも増加していくことが予想されます。そして人工関節手術件数の伸びとともに、今後もインプラント周囲骨折の発生件数は増加し、社会的な問題となることは想像に難くありません。

人工関節周囲骨折は、さまざまな要因によって引き起こされる可能性があります。手術中の技術的な誤り、インプラントの不適切な選択や設置、そして患者の骨の状態などが挙げられます。さらに近年では、肩、肘、手指、股、膝、足とさまざまな関節に対して人工関節手術が行われるようになってきたこともあり、その病態および治療方法が多様化しております。本骨折の治療には、外傷整形外科医と関節外科医、そしてリウマチ外科医が協力して治療に携わることになります。われわれ整形外科医の責務は、手術による合併症を最小限に抑え、患者の生活の質を向上させることです。これには、複雑化する治療方法に関する知識、適切な手術手技の習得、最新の治療指針の遵守、そして患者との密なコミュニケーションが欠かせません。

本号では、人工関節周囲骨折の発生メカニズム、診断の重要性、そして適切な治療法について、この分野の専門家の皆様からご寄稿いただきました。本企画が先生方の日常診療の一助となりますことを期待しております。そして、今後もより安全で効果的な人工関節治療の進歩につながり、患者の健康と機能の維持に貢献できればと思います。

岡山大学学術研究院医歯薬学域
整形外科学
尾崎敏文